第３回まちづくり委員会　会議録

開催日時　　令和８年１０月２２日（木）午後７時～午後９時
開催場所　　宮若市役所　３階　防災研修室
出 席 者　　吉田委員長、伊藤副委員長、荒川委員、磯島委員、小田委員、オルソン委員、金丸委員、神谷委員、小佐井委員、塩川（晋）委員、塩川（節）委員、篠原委員、中川委員、花田委員、樋口委員、平田委員、廣門委員、古野委員、山本委員、吉武委員、植田委員、渡辺委員
欠 席 者　　阿部委員
事 務 局　　秘書政策課職員３名
傍 聴 者　　０名

次第

１．開会のことば

２．本日の協議事項

〇概要

委員が５つのグループに分かれ、グループごとに総合計画の基本的施策に沿って、まちの課題・魅力・可能性について話し合い、その内容を発表した。各グループのテーマは次のとおりである。

グループ１	産業
グループ２	自然環境
グループ３	生活基盤・都市基盤
グループ４	教育・文化。市民協働・コミュニティ
グループ５	保健・福祉

発表では、テーマごとに異なる視点から意見が出されたが、いくつかの共通する論点も見られた。土地や施設の活用の方針を明確にすること、産業廃棄物をはじめとする無秩序な開発や不法な投棄への懸念、地域活動や産業の担い手の高齢化、交通手段の不足、地域

資源の情報発信、そして次世代への継承である。各グループは、現状の課題を整理したうえで、地域の魅力をどのように可能性につなげていくかという観点から提案をまとめた。

○課題

【産業】（グループ1）

都市計画で用途が決まっている区域は一部にとどまり、それ以外は決まっていない。そのため、工場などが無計画に立地すると、居住や観光に向かない環境になるおそれがある。特に、産業廃棄物に関わる施設ができると、観光地としても居住地としても価値が一気に下がることへの懸念が示された。農業については、高齢化などの課題があるとの指摘もあった。

【自然環境】（グループ2）

近年は異常気象により、水害に見舞われる地域と水が極端に不足する地域に分かれている。ある地域では、かつてタケノコが特産で地区が潤っていたが、高齢化と海外産タケノコとの価格競争により工場がなくなり、山が放置されて災害につながりかねない状況にある。川やダム周辺に産業廃棄物が放置され、ごみ捨て場のようになっている場所があることも挙げられた。市内にごみを焼却する施設がなく、隣の町で処理されるため、分別やリサイクルが実際につながっているのか見えにくいとの指摘もあった。また、浄化槽が中心で水道が整備されていない地域もあり、整備を進めるのは難しいとされた。

【生活基盤・都市基盤】（グループ3）

市営住宅は数が多い一方で入居者が少なく、活用方針が見えないことが指摘された。商店街にはシャッターを下ろした店が多く、かつての賑わいを取り戻せないかとの意見が出た。交通面では、市域が広いにもかかわらず公共交通機関が弱く、高速バスは通っているものの活用が進んでいない。新幹線の駅を設ける案も出たが、予算が足りず、JR が停車する見込みも現状では薄いとされた。公共施設については、誰がどの時間帯にどのように使っているかが把握できていないことも課題とされた。小中学校の数が少なく通学時間が長くなっているが、スクールバスは一部の地区に限られ、利用に制限がある。そのほか、消防団を継続する若者がいないこと、定住施策を進めているのに定住者が少ないことも挙げられた。

【教育・文化。協働・コミュニティ】（グループ4）

竹原古墳や石炭記念館など歴史的価値のある資源があり、県外から訪れる人もいるが、PRが足りないこと、案内や伝える人が不足していることから、十分に魅力を伝えきれていないと指摘された。また、少し離れた場所へ行く交通手段がなく、県外から来ても車がなければ行けないことも課題とされた。コミュニティ面では、以前は地区対抗の運動会があったが、人口減少により行われなくなった例が挙げられ、なくなっていくイベントがあることがも

ったいないとされた。宿泊場所はあるものの交通機関が整っていないため、行きたくても行けない人が出てくることも指摘された。

【保健・福祉】（グループ5）

学童保育が学校から約500メートル離れており、1年生は教員が付き添い、交差点には誘導員が立っているものの、距離があるため心配があるとの声が出た。長期休暇中は家庭の大人が不在のことが多く、子どもの居場所が必要になるという指摘もあった。民生委員、自治会、各種ボランティア団体など、地域の活動団体の高齢化が進んでいることも課題として挙げられた。さらに、人口を増やす、あるいは流出を防ぐためには、福祉を先に充実させるのか産業を先に伸ばすのかという問題があるとされた。障がいのある人については、企業での雇用の場はあっても地域での活動の場が少なく、市外に出ることが多いため、市内で完結していないという意見が出た。

〇魅力

【産業】（グループ1）

インターチェンジの近くは、物流関係などの産業に向いた立地である。また、ダム上流域は自然が豊かで、北九州の NPO 法人が運営する自然大学校の実習の場や、観光エリアとしての活用も考えられるとの意見が出た。

【自然環境】（グループ 2）

周囲を山に囲まれた自然の豊かさがあり、春には桜が咲くなど景色が美しいことが挙げられた。温泉や旅館といった観光資源もあり、整備が進めば観光地としても注目される可能性があるとされた。

【生活基盤・都市基盤】（グループ 3）

コミュニティセンターが充実していること、工業団地の整備が進められていることが挙げられた。災害が少なく、水害や土砂崩れの話をあまり聞かないことは、市が整備を進めてきた成果ではないかとされ、各地区に消防団があることも強みとされた。また、運動公園をはじめ公園や緑地が多く、家族で場所の取り合いをせずにゆったり過ごせることや、催し物が多いことも魅力として挙げられた。福岡や北九州に近いという立地のよさも魅力とされた。

【教育・文化、市民協働、コミュニティ】（グループ 4）

竹原古墳や石炭記念館など、県外から人が訪れるほどの歴史的価値のある資源があるこ

とが挙げられた。市民の集まりが活発で、毎週何かしらのイベントが開かれ、子ども食堂などのボランティア活動も行われている。産業面では、トヨタをはじめとする大手企業があり、トヨタが近隣の市などと連携して人材育成に取り組んでいる点が、教育の切り口として面白いとされた。また、自然が多く、学校の外で体験しながら学べる場所があることも魅力とされた。

【保健・福祉】（グループ 5）

魅力に関しての言及はなし。

〇可能性

【産業】（グループ1）

市が先に、産業エリア、居住エリア、観光・自然エリアなどを大まかに指定し、それぞれに合った産業政策や企業誘致、居住の呼びかけを進める案が示された。そうすることで無計画な開発を防ぐことができ、住みたい人も来やすくなるという考えである。

【自然環境】（グループ 2）

水を守ることを軸に、まず自分たちが身の回りの環境を整備し、その大切さを子どもたちに伝えていくことから始めるという考えが示された。タケノコについては、料理人などが新しい商品を開発し、それをきっかけに若い世代へ引き継いでいくことが提案された。高齢化が進む中でも、「緑の会」のような活動を立ち上げ、自然環境の整備と保全につなげる案も出た。川やダム周辺を整備して不法な投棄を減らせば、桜などの自然を活かした観光地化につながるとの期待も示された。あわせて、川の整備や地元の食材を食べることを食育に取り入れる案、環境に配慮した洗剤を北九州の企業と連携して使うなど水を汚さない取組を進める案、温泉や旅館など観光施設で環境に配慮した設備を増やす案も出された。

【生活基盤・都市基盤】（グループ 3）

市営住宅については、住宅として売却して住民を増やす、工業団地として活用するなど、方針を明確にして進めることが提案された。商店街の再生や、公共施設の利用状況を資料として示して活用方法を検討することも求められた。スクールバスは利用制限をなくして市内全域で使えるようにし、巡回させれば、保護者の安心につながり、送迎による登校前の渋滞も緩和されるとの意見が出た(予算面の課題はあるとされた)。高速バスの利便性のアピールや新幹線駅の可能性の検討も挙げられた。公園や緑地については、市から積極的に働きかけて取材に来てもらうなど外へ発信するとともに、公園を活かした催しやスポーツの場として活用していく案が出た。消防団の担い手確保や定住策についても、新しいアイデアを取

り込んでいく必要があるとされた。

【教育・文化、市民協働、コミュニティ】（グループ 4）

歴史や文化、産業、自然体験、市民の活動など、魅力のある資源が数多くあるため、これらをネットワークでつなぐことで、さらに地域を活性化できるのではないかという提案がされた。県外から人を呼ぶためには、移動手段などの利便性の向上が必要であるとされた。また、市民同士のネットワークがつながることで、住民自身が地域の魅力をより感じられるようになるとの考えも示された。

【保健・福祉】（グループ 5）

どこか一つでも突き抜けた強みがあれば、人が集まりやすくなるのではないかとの考えが示された。子どもについては、自然豊かで広い土地を活かし、子ども食堂のように子どもが集まれる場所や、寺子屋のような施設ができないかという希望が出た。障がいのある人についても、地域の中で活躍できる場を市内に設け、地域の活動とつなげていきたいという意見であった。

〇まとめ

5 つのグループの発表を通じて、地域には、自然、歴史・文化、立地、市民活動、企業の集積など、多くの魅力があることが確認された。一方で、無計画な開発や産業廃棄物への懸念、人口減少と担い手の高齢化、交通手段の不足、地域資源の情報発信の不足といった課題が、分野を超えて共通する認識として示された。

これらを可能性につなげる方策として、土地利用の方針を市が先に示すこと、市営住宅や公共施設などの既存の資源の活用方針を明確にすること、環境の保全と観光・産業を結びつけること、地域の資源や人をネットワークでつなぐこと、子どもの居場所や通学環境を整えること、障がいのある人も含めて誰もが地域で活躍できる場をつくることなどが提案された。

また、水や自然環境を守る取組を子どもたちへの教育・食育を通じて次世代へ引き継ぐことや、若い世代への担い手の継承が、複数のグループで共通して重要なテーマとして挙げられた。

３．連絡事項

・市のイベント案内

（１）宮若市文化祭

日時：１０月３１日（土）午前９時３０分～午後５時頃

１１月　１日（日）午前１０時～午後５時頃

場所：宮田文化センター、マリーホール宮田

（２）人権問題地域懇談会

日時・会場

・１０月２９日（木）午後７時～　笠松研修センター

・１１月　５日（木）午後７時～　中央公民館若宮分館

・１１月１２日（木）午後７時～　若宮コミュニティセンター　ハートフル

・１１月１９日（木）午後７時～　マリーホール宮田

・１１月２６日（木）午後７時～　光陵小学校体育館

４．閉会のことば